

第**138**期

## 中間事業報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで



LNG燃料自動車専用船「SWEET PEA LEADER」


**社長ご挨拶**


株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

当中間期においては、緊迫状態が続く中東情勢に起因する船舶需給の逼迫や堅調な輸送需要により、定期船事業や自動車事業が好調であったことから、当中間期の連結経常利益及び親会社株主に帰属する

中間純利益は、共に前中間期を大きく上回る2,892億円及び2,658億円となりました。この結果も踏まえ、資本効率向上と持続的成長の両立を意識しながら、機動的な株主還元を実施するとの方針に基づき、本年5月に決定しました上限1,000億円の自己株式の取得に関して、本年11月6日にその取得枠を上限1,300億円に拡大することを決定いたしました。

当社グループは、中期経営計画“Sail Green, Drive Transformations 2026 - A Passion for Planetary Wellbeing -”にて当社グループビジョンとして掲げる「総合物流企業の枠を超え、中核事業の深化と新規事業の成長で、未来に必要な価値を共創します。」の下、当中間期も様々な事業を推進してまいりました。脱炭素社会実現へ向けた取組みも加速させております。船舶運航における燃料転換は喫緊の課題ですが、世界初となるアンモニア商用燃料船である、アンモニア燃料タグボート「魁」が

竣工し実証航海を開始しました。洋上風力発電支援業務としては、石狩湾新港でのCTV(Crew Transfer Vessel: 作業員輸送船)の運航に加え、船員や洋上風力発電の作業員を育成する訓練センター「風と海の学校 あきた」も開所しました。秋田県外から多くの受講者を呼び込むことで人流を起こし、地方創生にも貢献しております。

中期経営計画の支えの戦略である「人財」についても、Diversity & Inclusion(ダイバーシティ・アンド・インクルージョン)における当社グループの姿勢を明確にするため、“D&I Promise”を策定・公表しました。35,000人のグループ全社員一人一人が個性と能力を発揮し、誇りと自信をもって生き生きと働ける組織風土を醸成します。さらに、今般改めて、当社グループにとって持続的成長促進の新たな糧であると考えている女性活躍推進を、「経営に資するジェンダー・ダイバーシティ」として再定義し、積極的に進めてまいります。

また、環境課題への取組みの中でも、循環型経済をテーマに、国内での鉄スクラップ循環、宇宙関連事業(再使用型ロケットの洋上回収)等のプロジェクトを推進している他、森林再生へのチャレンジプロジェクトとして静岡県御殿場市に「ゆうのもり」をオープンしました。海への恩返しとして、森づくりによって山や川をきれいにし、海洋環境の保全につなげることを目指します。

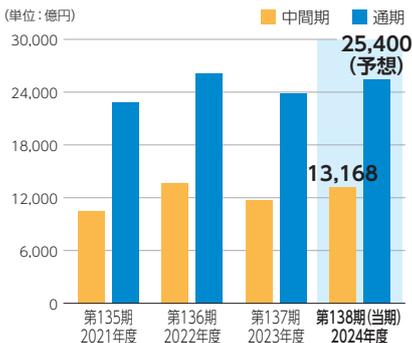
グループ企業理念“Bringing value to life.”の下、社会課題の解決への挑戦を通して、新たな企業価値を創造してまいります。株主の皆様には、今後とも当社グループ事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年11月  
代表取締役社長

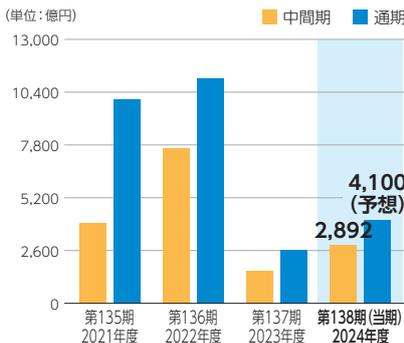
曾我 貴也

# 主要財務ハイライト (連結)

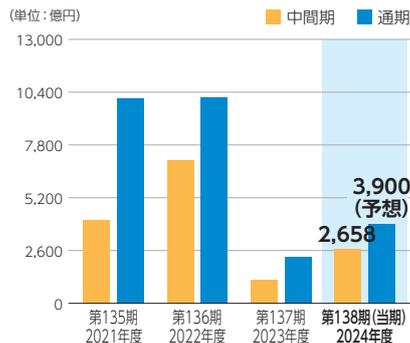
## (1) 売上高



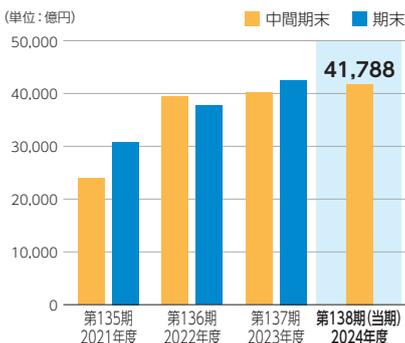
## (2) 経常損益



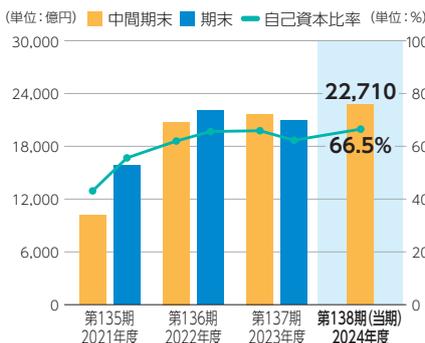
## (3) 親会社株主に帰属する当期(中間)純損益



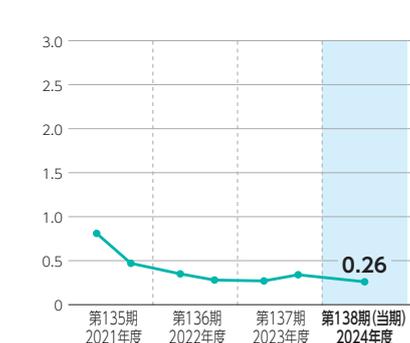
## (4) 総資産



## (5) 株主資本・自己資本比率



## (6) 有利子負債自己資本比率 (D/E Ratio)



(注1) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。  
 (注2) (1)～(3)のみ、当期の通期予想を記載しています。

## 事業部門別業績

(単位：億円)

		ライナー&ロジスティクス事業			不定期専用船事業			その他事業	
		定期船事業	航空運送事業	物流事業	自動車事業	ドライバルク事業	エネルギー事業	不動産業	その他の事業
第136期 中間期	売上高	1,012	1,239	4,744	6,164			17	1,252
	経常損益	5,666	439	371	1,185			8	14
第137期 中間期	売上高	1,117	778	3,386	2,434	2,708	814	1,083	
	経常損益	467	3	137	605	205	220	9	
第138期 中間期	売上高	922	926	4,012	2,716	3,234	910	1,034	
	経常損益	1,766	83	124	616	85	218	42	
売上高構成比 (当中間期)		6.7%	6.7%	29.3%	19.7%	23.5%	6.6%	7.5%	
		42.7%			49.8%			7.5%	

(注1) 事業部門別業績は、事業部門間の内部取引高消去前の数字です。  
 (注2) 特定の事業部門に帰属しない一般管理費及び営業外費用は全社費用とし、上記に含めていません。  
 (注3) 第137期より、事業部門別の経営成績をより適切に反映させるため、各事業部門に帰属する利息額等の算定方法を変更しています。各事業部門の売上高に与える影響はありません。なお、第136期中間期の経常損益についても、変更後の測定方法に基づき作成した数値に修正しています。  
 (注4) 第138期(2024年度)より、「不定期専用船事業」を「自動車事業」「ドライバルク事業」「エネルギー事業」に分割し、また「不動産業」は「その他事業」に含めて表示する方法に変更しています。これに伴い、第137期(2023年度)の数値も変更後の区分に合わせて組替再表示しています。

## 中間連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	708,512	流動負債	541,363
固定資産	3,470,025	固定負債	813,490
有形固定資産	1,198,246	負債合計	1,354,853
無形固定資産	50,074	<b>純資産の部</b>	
投資その他の資産	2,221,705	株主資本	2,271,006
繰延資産	329	その他の包括利益累計額	509,491
資産合計	4,178,867	非支配株主持分	43,515
		純資産合計	2,824,013
		負債純資産合計	4,178,867

## 中間連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

売上高	1,316,816
営業利益	115,628
経常利益	289,239
特別利益	13,411
特別損失	3,452
親会社株主に帰属する中間純利益	265,892

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	230,795
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,615
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 256,331